



®環境省

エコアクション21
認証番号0000309

2022年度

EA21 環境経営レポート

対象期間：2022年04月01日～2023年03月31日

作成年月日：2023年09月29日

葛城工業株式会社

〒635-0804

奈良県北葛城郡広陵町沢 338 番地

TEL：0745-56-6335

FAX：0745-56-3112



目次

事業の概要	3
工場配置図	4
認証・登録範囲及び組織図	5
環境経営方針	6
環境目標とその実績	7～10
マテリアルバランス	11
太陽光発電の実績	12
その他の環境活動	13～15
教育・訓練	16
環境関連法規などの遵守状況	17
代表者による全体の評価と見直し・指示	18～19
主要な環境負荷及び負荷削減の取り組み	20～21



本社工場

王寺工場



事業の概要

(1) 事業者名

葛城工業株式会社

(2) 代表者名

代表取締役 吉岡 弘修

(3) 所在地

本社工場：奈良県 北葛城郡 広陵町 沢 3 3 8 番地

王寺工場：奈良県 北葛城郡 王寺町 畠田 1 丁目 2 2 0 - 1

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者の連絡先

責任者 製造部部长 寺川 博

担当者 品質保証課 森 正行

連絡先 TEL 0745-56-6335 FAX 0745-56-3112

(5) 事業の内容

鋼板の板金加工品及び溶接加工品の製造

(6) 事業の規模 (2023.03 時点)

・売上高 409,199 万円 (2022.04~2023.03)

・主要製品生産量 9,816 Ton

・従業員数 本社工場 124 名

王寺工場 67 名

計 191 名

・敷地面積 本社工場 4,600 m²

駐車場 2,380 m²

王寺工場 4,700 m²

計 11,680 m²

・工場面積 本社工場 3,072 m²

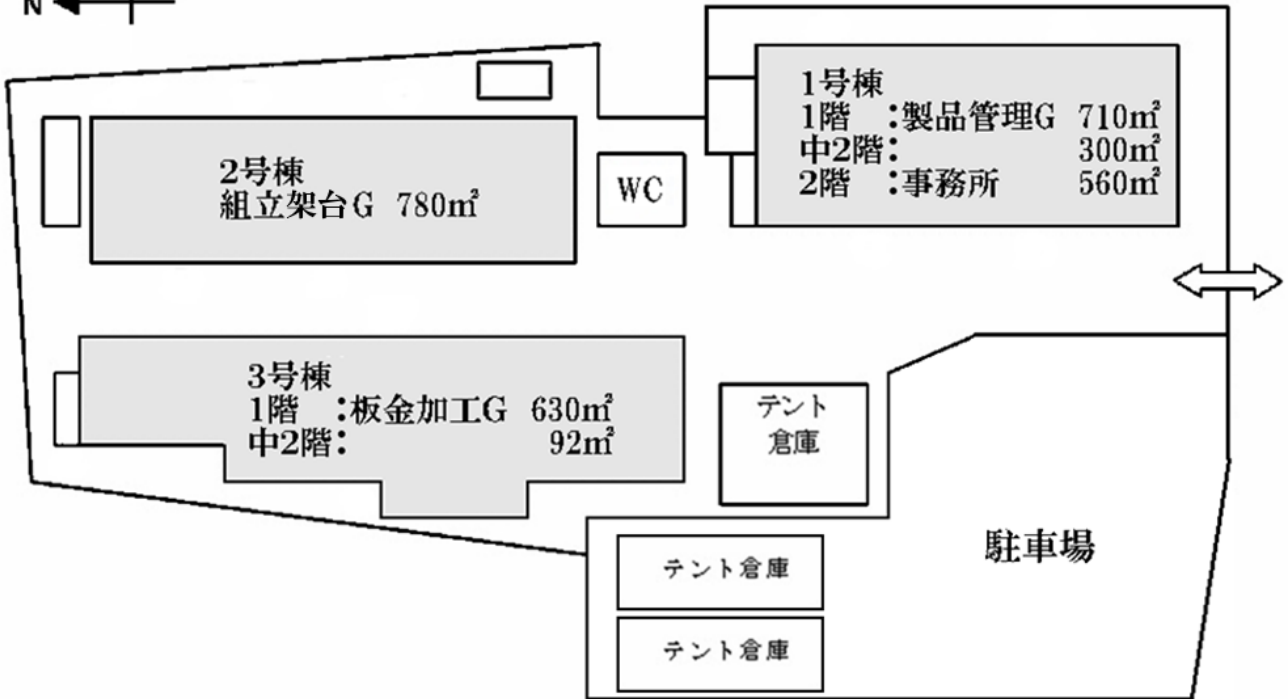
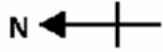
王寺工場 3,330 m²

計 6,402 m²

工場配置図

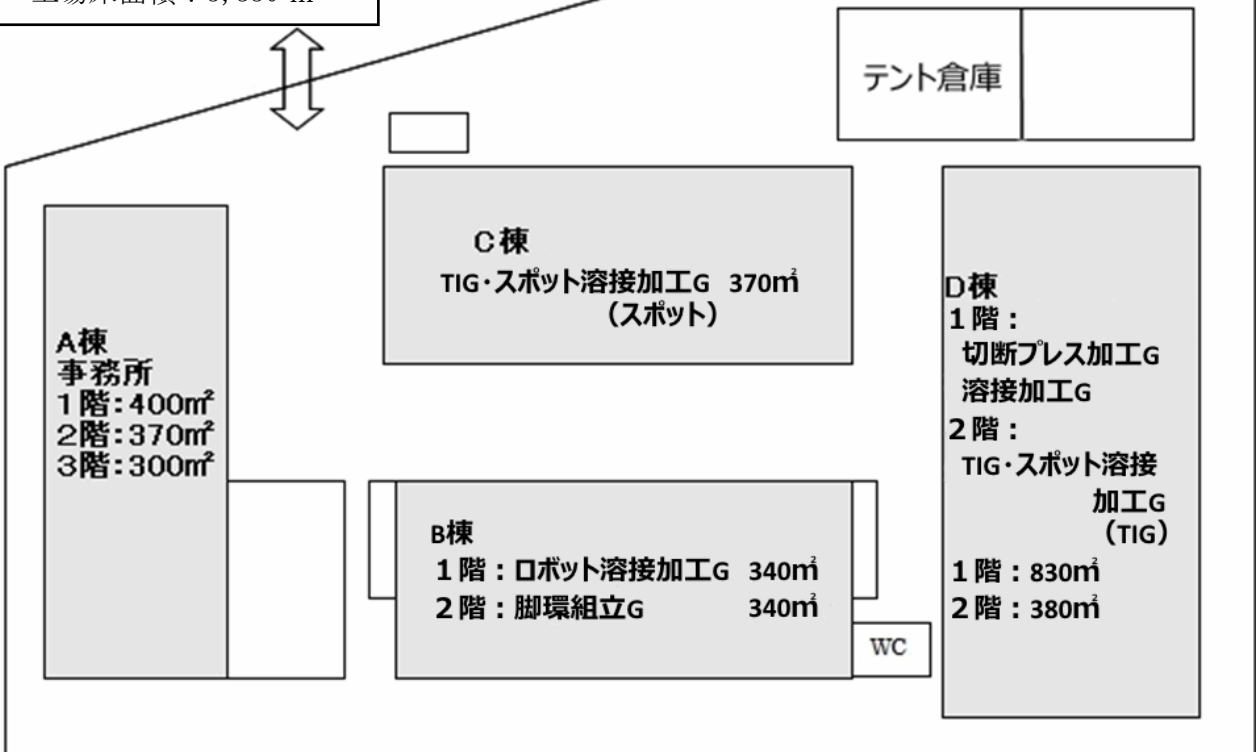
本社工場

敷地面積 : 4,600 m²
工場床面積 : 3,072 m²



王寺工場

敷地面積 : 4,700 m²
工場床面積 : 3,330 m²



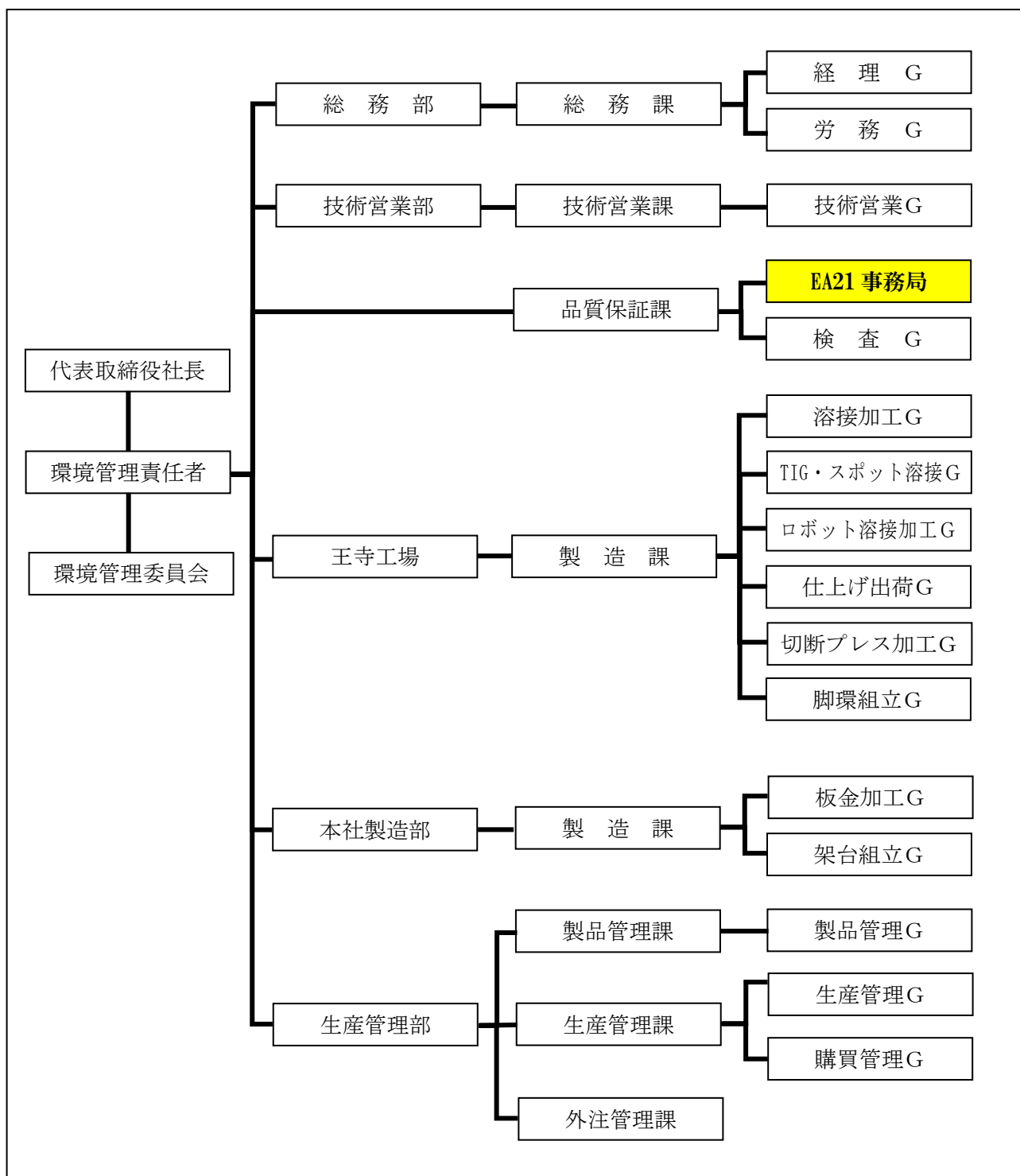
認証・登録範囲及び実施体制

1. 認証・登録範囲

事業所名：葛城工業株式会社

関連事業所：王寺工場

2. 実施体制



環 境 経 営 方 針

1. 基本理念

私達は、環境にやさしい製造業として省エネルギー・省資源による活動を一貫して行なう事に取り組む。

2. 方針

当社の基本理念に基づき、金属部品加工製造の事業活動を通じ、環境活動を実施し社会及び地球環境に貢献できる事を目指します。

- I. 環境目標を定め、経営改善に役立つ活動と継続的改善に取り組みます
- II. 環境に関する法規制、条例を順守し、環境負荷の削減に取り組みます
- III. 環境経営方針は全従業員に周知すると共に一般に公開します。

3. 行動指針

- I. スクラップの削減とリサイクル化
 - (1) スクラップ排出比率の削減
 - (2) スクラップ使用製品の考案
- II. 生産工程の環境配慮
 - (1) エネルギー・化学物質使用量の把握及び改善
 - (2) 工程改善による効率化
- III. 職場環境の改善と3S活動の推進
 - (1) 3Sパトロールの推進
 - (2) 社内労働災害“0件”
 - (3) 社内提案による現場改善の推進
- IV. 地域社会との交流の推進

制定日：2005年03月08日

改定日：2020年04月20日

葛城工業株式会社

代表取締役 吉岡 弘修

環境目標とその実績

【中期計画目標】

- ・中期計画目標は2021年度を基準とし、相対指標が前年の97%になるように目標を設定しています。
- ・本年度は中期計画の1年目です。
- ・相対指標はそれぞれ実績値から指標とする売上(百万円)・購入資材量(t)・生産量(t)を割ったものとしています。

		基準値	相対指標	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標
売上を指標とするもの						
売上高 (百万円)		3,781				
CO ₂ 排出量 (t)		463.3	0.123	0.119	0.115	0.112
電力使用量(MWh)		1,279	0.338	0.328	0.318	0.309
電力によるCO ₂ 排出量 (t)		397.7	0.105	0.102	0.099	0.096
化石 燃料	ガソリン(ℓ)	6,614	1.749	1.697	1.646	1.597
	軽油(ℓ)	6,430	1.701	1.650	1.600	1.552
	灯油(ℓ)	480	0.127	0.123	0.119	0.116
燃料によるCO ₂ 排出量(t)		33.1	0.009	0.008	0.008	0.008
廃棄物	コピー用紙(kg)	2,335	0.618	0.599	0.581	0.564
	廃油(kg)	1,080	0.286	0.277	0.269	0.261
水資源 (m ³)		3,571	0.945	0.916	0.889	0.862
原材料を指標とするもの						
購入資材量 (t)		10,734				
スクラップ(t)		580	0.054	0.052	0.051	0.049
生産量を指標とするもの						
生産量 (t)		10,154				
溶接棒	CO ₂ 溶接ワイヤー(kg)	10,820	1.066	1.034	1.003	0.973
	Tig溶接棒(kg)	10	0.001	0.001	0.001	0.001
ガス類	炭酸ガス(kg)	32,460	3.197	3.101	3.008	2.918
	アルゴンガス(m ³)	364	0.036	0.035	0.034	0.033
塗料	水性グリーンボーセイ(kg)	3,984	0.392	0.381	0.369	0.358
	塗料用シンナー(ℓ)	176	0.017	0.017	0.016	0.016
	洗浄用シンナー(ℓ)	212	0.021	0.020	0.020	0.019

※購入電力は関西電力からの購入となっております。

※購入電力二酸化炭素排出係数は**2021年度0.311kg-CO₂/kWh**としています。

※廃棄物については廃棄物処理業者に処分の委託を行っています。

【2022年度目標の達成状況】

・本年度に立てた中期目標値に対し、比率及び原材料購入量前年比に対する達成度も記載します。

・主資材・副資材

		2021 年度 実績	2022 年度 実績	相対 指標	2022 年度 目標	2021 年度比	目標 達成度
売上を指標とするもの							
売上高（百万円）		3,781	4,092			108.2%	
全体のCO ₂ 排出量(t)		463.3	469.0	0.115	0.126	101.2%	109.9%
電力使用量(MWh)		1,279	1,297	0.317	0.328		
電力によるCO ₂ 排出量(t)		397.7	403.5	0.099	0.110	101.5%	103.4%
化石 燃料	ガソリン(ℓ)	6,614	7,412	1.811	1.697	112.1%	93.7%
	軽油(ℓ)	6,430	6,266	1.531	1.650	97.5%	107.8%
	灯油(ℓ)	480	240	0.059	0.123	50.0%	209.7%
燃料によるCO ₂ 排出量(t)		33.1	34.0	0.008	0.008	102.5%	96.4%
廃棄物	コピー用紙(kg)	2,335	1,890	0.462	0.599	80.9%	129.7%
	廃油(kg)	1,080	1,080	0.264	0.277	100.0%	105.0%
水資源（m ³ ）		3,571	3,747	0.916	0.916	104.9%	100.0%
原材料を指標とするもの							
原材料購入量（t）		10,734	10,370			96.6%	
スクラップ(t)		580	562	0.054	0.052	96.8%	95.9%
生産量を指標とするもの							
生産量(t)		10,154	9,808			96.6%	
溶接棒	CO ₂ 溶接ワイヤー(kg)	10,820	12,375	1.262	1.034	114.4%	82.0%
	Tig溶接棒(kg)	10	5	0.001	0.001	50.0%	196.2%
ガス類	炭酸ガス(kg)	32,460	31,480	3.210	3.101	97.0%	96.6%
	アルゴンガス(m ³)	364	238	0.024	0.035	65.4%	144.2%
塗料	防錆塗料(kg)	3,984	3,890	0.397	0.381	97.6%	96.1%
	塗料用シンナー(ℓ)	176	128	0.013	0.017	72.7%	130.3%
	洗浄用シンナー(ℓ)	212	148	0.015	0.020	69.8%	132.5%

※購入電力は関西電力からの購入となっております。

※購入電力二酸化炭素排出係数は2021年度調節後排出係数の0.311kg-CO₂/kWhとしています

※廃棄物については廃棄物処理業者に処分の委託を行っています。

・化学物質消費量（塗料商品別）： 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

製品名	物質番号/名称	含有量 (質量%)	比重	2020年		2021年		2022年		
				使用量	排出量	使用量	排出量	使用量	排出量	
水性グリーン ボーセイ	含有量1%未満のため計上せず			528 kg		0 kg		44 kg		
アクアマックスEX										
AQプライマー グレー								3,312 kg	3,984 kg	3,888 kg
塗料用 シンナー	80/キシレン	1.2%	0.86	128 ℓ	1.3 kg	176 ℓ	1.8 kg	128 ℓ	1.3 kg	
	296/トリメチルベンゼン	7.8%	0.88	128 ℓ	8.8 kg	176 ℓ	12.1 kg	128 ℓ	8.8 kg	
	297/トリメチルベンゼン	2.5%	0.86	128 ℓ	2.8 kg	176 ℓ	3.8 kg	128 ℓ	2.8 kg	
洗浄用シンナー	300/トルエン	50.0%	0.87	192 ℓ	83.5 kg	212 ℓ	92.2 kg	148 ℓ	64.4 kg	
脱脂洗浄剤	626/ジエタノールアミン	12.0%	1.09					18 ℓ	2.4 kg	
計					96.4 kg		109.9 kg		77.2 kg	

【評価】

本年度は2021年度を基準として定めた中期計画目標の1年目となります。

単純な使用量について昨年と比較した場合、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が落ち着きを見せていることによりリモートワークの減少や直接取引先に向かうことが増えたため、電気使用量・ガソリン・上水の使用量がやや増加しています。また、生産仕様の変更もあり溶剤・アルゴンガスの購入量が減った一方で、溶接ワイヤーの購入周期の影響で本年度の購入量は大幅に増えています。

原材料価格の高騰に伴い製品価格が高くなったため生産量は4%程減少しているのに対し売上は8%程増加しています。それを踏まえた上で本年度の実績と中期目標値との比較の評価は以下の通りです。

・目標に対し大きく効率が改善されているもの(達成度 110%以上)

- ・灯油は使用場所の整備により使用量が半減しました。
- ・コピー用紙は購入先の変更により既存の在庫を使い切る必要性があったため新規購入を控えた結果大幅に購入量が減少しました。
- ・生産している製品の傾向により Tig 溶接棒・アルゴンガス・有機溶剤に関しては使用量が大きく減少しているのだと思われま。

・目標に対し効率が悪化しているもの(達成度 90%未満)

- ・溶接ワイヤーの購入量は上記の通り一括購入の周期の問題で本年度は大幅に増加しています。関連している副材料の炭酸ガス・防錆塗料がやや減少していることから使用量自体には大きな変動はないと考えられます。

【次年度の取り組み】

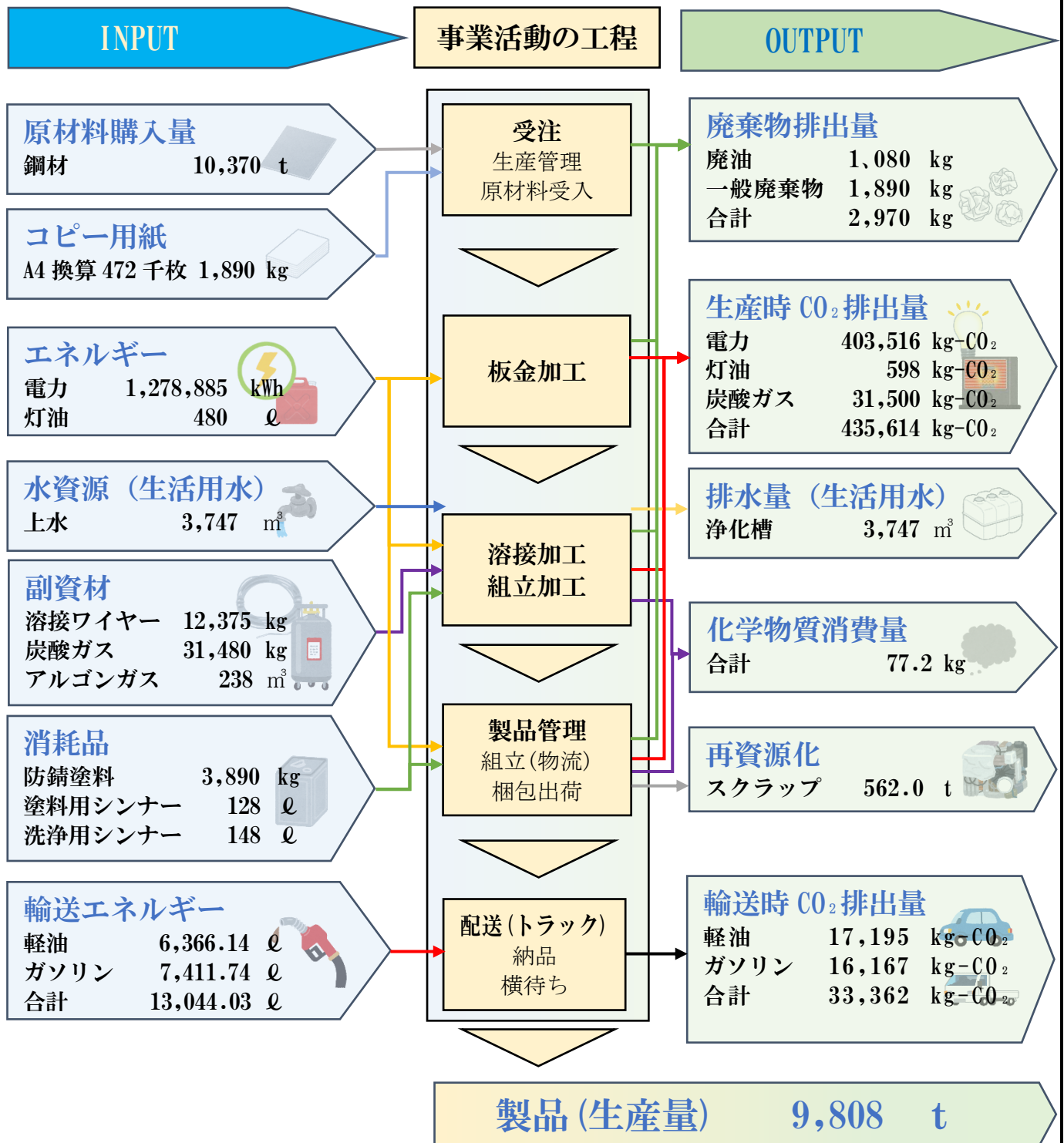
次年度は前年度に引き続き継続しているものも含め環境経営活動について以下のように取り組む

目標	目標達成手段	取り組み
電気使用量の効率改善	消灯の励行 昼休み時消灯	向上及び事務所の 照明灯全般の見直し
	冷暖房温度の設定	冷房 28℃以上暖房 20℃以下
	休憩時設備運転の停止	30分以上休止を対象
	電気使用量の把握	実績の記録
	最大電力の抑制	デマンド監視装置の運用
燃料使用量の効率改善	化石燃料使用量の削減	車両関連のエコ運転推進 走行距離の記録
	燃料購入量の把握	実績の記録
上水使用量の効率改善	上水使用量の削減	節水の励行 漏水のチェック
	上水使用量の把握	実績の記録
コピー用紙使用の効率改善	コピー用紙の削減	両面・裏面のコピー利用 電子データの活用
	用紙購入量の把握	実績の記録
原材料使用量の効率改善	原材料使用量の削減	適正量の購入 不良品クレームの撲滅 製品在庫削減
	原材料購入量の把握	実績の記録
スクラップ排出量の削減	スクラップ排出量の削減	適正生産 端板の有効活用 鋼種別収集
	スクラップ排出量の把握	実績の記録
化学物質消費効率改善	化学物質消費量の削減	塗装ロボットの有効活用 霧散の防止
	化学物質製品購入量の把握	実績の記録

その他

- ・ コロナ禍による脅威は減ったものの対策は今後も継続して行う。
- ・ 本年度からは新たな中期目標を定めた。
- ・ 生産性の向上・安全の確保・品質の向上等は資材・資源に対する効率向上につながるため労働環境の改善にも取り組んでいきたい。

マテリアルバランス



スクラップ率年度別比較

年度	原材料(t)	スクラップ(t)	スクラップ率	前年比
2019	11,119	609.3	5.48%	+0.42%
2020	9,617	499.8	5.20%	-0.28%
2021	10,734	580.4	5.41%	+0.21%
2022	10,370	562.0	5.42%	+0.01%

太陽光発電の実績

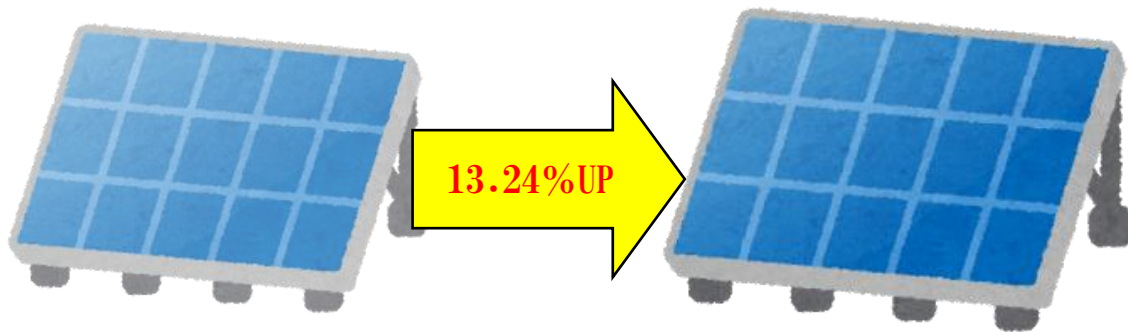
本社工場

発電容量：185.76kW

二酸化炭素削減効果：
64,305kg-CO₂



本社工場パネル全景



予測発電量：182,600kWh

発電電力量：206,769kWh

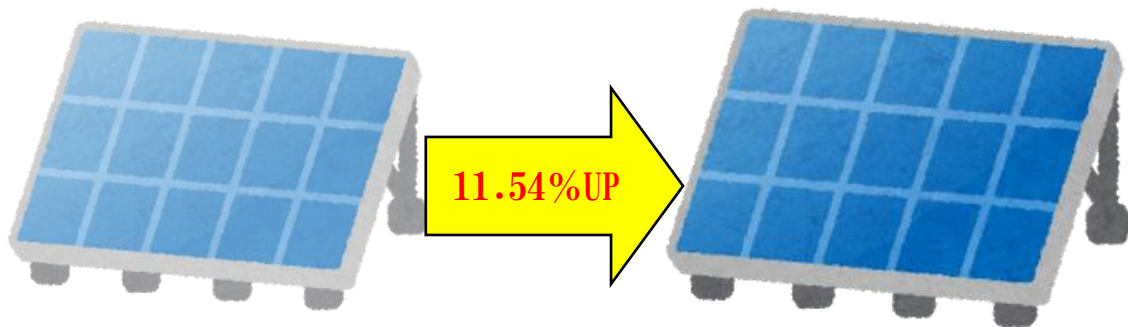
王寺工場

発電容量：176.00kW

二酸化炭素削減効果：
62,509kg-CO₂



王寺工場パネル全景



予測発電量：180,200kWh

発電電力量：200,993kWh

その他の環境活動

1. 地域とのコミュニケーション

・県立工業高校生インターンシップ

3名 (11/24・12/1・1/12) 3日間

2名 (12/13~16) 4日間



2. 5Sの展開及び職場環境の改善

- ・職場清掃 : 全従業員昼 10 分間、各職場清掃／毎日実施 (毎年継続)
- ・職場パトロール : チェックシートによる各職場の整理整頓/毎月 (継続)
社内委員会による巡回/毎月 (新規追加)
- ・自動機の安全対策 : 塗装ロボット、溶接ロボット、レーザー加工機等の危険区域に表示ライン引き
床に安全地帯の表示・塗装
- ・職場環境 : 廃棄物・スクラップの鋼種・分別収集 (継続)・新型コロナウイルス対策
- ・緩衝材装着 : 建材の角部・ラックの端部に緩衝材を装着

3. 法規制設備の維持管理/毎年

- ・プレス関係の自主点検 : 22 台 (06/02 11/10 12/22) 実施
- ・フォークリフト自主点検 : 11 台 (毎年購入月) 実施
- ・天井クレーンの自主点検 : 7 台 (05/07 05/10) 実施
- ・浄化槽法定点検 : 奈良県環境保全協会 ・本社工場 (11/16) ・王寺工場(11/29) 実施

維持管理

本社工場 点検 (04/02 08/06 12/03)

汲取り (04/03 08/07 12/11)

王寺工場 点検 (05/12 07/27 09/15 11/17 01/23 03/09)

汲取り (04/16 10/15)

- ・消防用設備等点検 : S E C O M ・本社工場 (05/06 11/02)
・王寺工場 (06/07 12/13)

4. 環境負荷対策

- ・前年度より環境負荷への対策は継続的に実施しています。
- ・2022 年度活動計画に基づき以下の改善を行っています。

作業台の蛍光灯を LED 蛍光灯へ切り替え



出荷作業場で使用されている蛍光灯を従来の型蛍光灯から LED 蛍光灯への切り替えを行っています。

LED 蛍光灯は直管型蛍光灯と比較して以下の長所が存在します。

- ・長寿命
- ・電力使用量が半分で済む
- ・点灯時に発生する熱が少ない
- ・明るさが均一であり、管内に汚れが発生しない

以前は価格が高いという短所が存在しましたが LED の生産が安定したと同時に価格は従来の蛍光灯と変わらない価格となっています。

ただ、従来の蛍光灯と切り替えるためには照明器具そのものを切り替える必要があるため、建屋の場合工事が必要になりますが、作業台であれば器具そのものを交換すれば済むので容易に切り替えることが可能となりました。

5：継続実施事項

2010 年度以降の主な環境及び省エネ対策（各年度 環境活動レポートより）

2010

- ・フォークリフトをディーゼルエンジン車からバッテリー車に入替
- ・自家用車をハイブリットカー及びグリーン購入法適合車に入替
- ・油圧式ブレーキプレスをサーボ駆動式（MF エコマシン認証）に 2 基入替 計 5 基
- ・ロボット溶接機 3 基の導入 計 4 基

2011

- ・工場天井照明の LED 化を検討。一部水銀灯を 24 灯 LED に交換
- ・自家用車をハイブリットカーに入替
- ・国土緑化推進機構の「緑の募金」に参加。自販機 販売手数料の 1%を募金
- ・防錆塗料ガルヴァー#300 をグリーン購入法適合品「グリーンボーセイ速乾」に変更。
- ・グリーンリース契約対応の「バリ取り機メタルエステ」導入。「グリーン電力証書」受理

2012

- ・王寺工場 新設(5月) 溶接工程に特化
- ・溶接作業場の環境改善。ロボット溶接機(4基)をフード付ダクト方式、及び手作業のCO₂溶接部門を斜流ダクトファンで集煙し、産業用空気洗浄機で浄化(4ライン)。
- ・王寺工場D棟既設屋根の断熱施工。折半屋根をWパック工法で断熱対策を実施(830㎡)
- ・本社工場 関西電力節電要請の冬季・夏季デマンドカットプランに参加。

2013

- ・本社工場 天井照明灯 水銀灯(97灯)をLED照明に取替え(29.1kW→9.11kW) 69%削減
- ・CO₂レーザー加工機をファイバーレーザーに更新。窒素発生装置・パレットチェンジャーの導入
- ・UB 架台組立用 自動ネジ締め機の導入。NC 6軸自動機及びロボットアーム式 自動機(2基)
- ・本社工場 太陽光発電(高圧 186 kW) 設置
- ・王寺工場 太陽光発電(低圧 49 kW) 設置
- ・工場天井照明灯、水銀灯(66灯)をLED照明に取替え(19.8kW→5.56kW) 72%削減
- ・デマンド制御システム導入。ネット回線でリアルタイムに電力使用状況が監視出来る
- ・大型ロボット溶接機2基増設。ダクト方式の産業用空気清浄機システム同時に設置
- ・本社・王寺工場に「防災食(UAA食品)」400食を備蓄。

2014

- ・本社工場 自動ネジ締め機の導入(2基)
- ・王寺工場 塗装ロボットの導入(3基) 水性防錆塗料の使用により 化学物質排出を抑制
空調設備の更新(8台)

2015

- ・王寺工場 全自動片側スポット溶接機設置
- ・王寺工場 太陽光発電 127 kW 増設(高圧 76 kW)

2016

- ・デマンド制御システムの更新。温度計設置による室温での制御を行うように変更した。

2017

- ・社内の労働環境改善及び社内コミュニケーションの向上を目的とした委員会活動の設置。

2018

- ・王寺工場D棟C棟入り口にシートシャッター導入

2019

- ・アルカリ水洗浄装置の設置
- ・洗浄用シンナーの容器改良(蒸散防止)

教育・訓練（2022年度）

(1) 経営方針説明会

- ・第48期 経営方針説明会：
04/23 09:15～12:00
経営方針・経営目標説明
各部門・委員会の戦略テーマと取組説明
提案表彰・新入社員紹介
- ・経営会議の開催：
毎月1回開催（毎月7日付近）
参加者：工場長・課長職以上の幹部社員



経営方針説明会

(2) 品質・環境・安全委員会

- ・品質・環境・安全委員会の開催：
毎月1回開催（毎月7日付近）
参加者：グループライダー以上の管理者

(3) 提案委員会

- ・提案委員会の開催：
8回(07/04 08/31 09/30 11/30
12/29 01/31 02/28 03/30)
提案件数 104件
参加者：各部門の提案委員

(4) EA2 1 更新審査

エコアクション2.1地域事務局大阪（審査日 05/16）



避難訓練

(5) 外部機関の教育・訓練

- ・技能講習習得：
フォークリフト技能講習 2名
- ・特別教育受講：
クレーン特別教育 1名
パナロボ教示等安全特別教育研修 3名

(6) ISO9001・22301 統合審査

日本品質保証機構（審査日：08/05～07）

(7) 避難訓練の実施

本社工場（06/30 10:10～10:30）
王寺工場（06/30 13:05～13:30）

(8) 消火訓練の実施

本社工場（06/30 10:30～11:00）
王寺工場（06/30 13:30～14:00）



消火訓練

環境関連法規などの遵守状況

(1) 当社に適用される主要環境法令

法律等の名称	該当する要求事項	評価方法	遵守
奈良県生活環境 保全条例	第 41 条 騒音等規制基準	騒音測定記録	○
消防法	第 17 条の 3 の 3 消防用設備等点検	点検結果報告書	○
浄化槽法	第 7 条 設置後の水質検査	法的検査結果書	○
	第 11 条 定期検査	管理報告書(環境保全協会)	○
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	第 12 条 事業者の処理	産業廃棄物処理委託契約書 廃棄物収集運搬処理契約書	○
資源の有効な利用の 促進に関する法律	第 4 条 事業者の責務	再生利用廃棄物処理 委託契約書	○
化学物質排出 把握管理促進法	PRTR 制度による該当物質の把握 SDS 制度による分析情報	対象化学物質排出量の把握	○
労働安全衛生規則	第 134 条の 3 動力プレスの定期自主検査	特定自主点検報告書	○
	第 151 条の 21 フォークリフトの定期自主検査	特定自主点検表	○
クレーン等安全規則	第 34 条 定期自主検査	天井クレーン点検表	○
フロン排出抑制法	第 16 条 管理者判断基準の遵守 (簡易点検、定期点検の実施)	簡易点検 (3 ヶ月 1 回) 定期点検 (業者点検 3 年 1 回以上)	○
	第 19 条 1 フロン類算定漏洩量の届出	漏洩量報告書 (1000 t-CO ₂ 以上)	○
	第 41 条 フロン類引渡義務		○
	第 43 条 1~3 回収依頼書 委託確認の 交付と保管 (3 年間)	回収依頼書、委託確認書	○
	第 45 条 3 引き取り証明書または 写しの保存 (3 年間)	引き取り証明書	○
第 86 条 フロン類の放出禁止		○	
小型電子機器 リサイクル法	第 7 条 分別回収、 再資源化可能業者への引渡し	廃棄品のリサイクル 状況の把握	○
家電リサイクル法	第 6 条 長期間使用による廃棄抑制、 回収者への引渡し。料金の支払い	廃棄品のリサイクル 状況の把握	○

(2) 違反・訴訟等の有無

大気汚染物質・水質汚染物質・騒音・振動等の環境関連法規への違反は確認されていません。
関係機関による違反等の指摘及び周辺住民からの苦情等は過去三年間確認されていません。
また、訴訟等もありません。

代表者による全体評価と見直し・指示

2022年度はコロナ禍も落ち着きを見せ、経済活動も平常を取り戻している。昨年まで行えなかった社内行事・活動についてはだんだん再開することができるようになってきた。

取組結果の評価

- ・2022年度はコロナ禍の影響が落ち着きを見せたが原材料価格の高騰の影響があり、単価が上がったため売り上げは伸びたが生産量は減少した
- ・コロナ禍の影響が少なくなってきたため自粛していた社外の用事が増えて社用車の使用が大きく増えてきている。コロナ禍の影響が残っている状態の数字を目標の基準とすると今後の達成が厳しくなるかもしれない。
- ・来季より王寺工場に新棟が増える、機能移設等のため来季については消費資材に変化は起きず、大きく変化があるのは2024年度以降となる。
- ・太陽光発電は昨年度より日照時間が増えたせいか発電量が多く、本来の予測発電量より12.4%ほど多く発電を行っている。

今後の展開 (2023年度活動計画)

今後の具体的な活動計画は第49期経営方針に織り込んでいる。

- ・**経営方針**
 - I. 利益率の改善/仕事の効率化
 - II. 企業風土の確立
 - III. 独自製品の確立
- ・**事業継続方針**
 - I. 従業員の生命尊重を第一とし、従業員が安心して働ける会社作りを行います。
 - II. 地域の方々と最大限協力し合い、地域から信頼される会社を目指します。
 - III. 利害関係者と出来る限り情報を共有化し、事業のスピーディな復旧を行うことで信頼される会社を目指します。
 - IV. 事業継続目的を作成し、事業の継続を確実にします。
- ・**品質方針**
 - I. 顧客第一主義に徹し、より良い製品をより早く供給する。
 - II. 口頭指示禁止により曖昧な作業を撲滅する。
 - III. 決めたことは必ず守る
- ・**環境方針**

前述の方針内容と同じ。
- ・**中期経営目標**

事業継続方針に従い別途定める。
- ・**経営戦略テーマ**

各部門長は方針に基づき、戦略テーマ・内容・目標の計画を行う。

環境経営の実施体制への指示

- **環境方針**

前述の方針内容と同じく前年度と同様に継続する。

- **実施体制**

前年同様引き続き実施体制を維持する。

- **その他の指示**

- コロナ禍が落ち着いてきたため 2023 年度【第 49 期経営方針】は来賓を呼び社員は王寺と王寺とで分かれ、リモート通信をつなげる形式開催する
- コロナ禍は落ち着いてきたとはいえ、感染者自体はいまだに多い。警戒と対策は怠らないよう気を付ける。

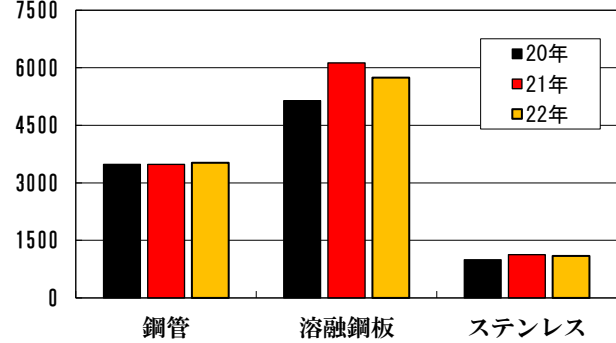
データ一覧

1：環境活動における環境負荷及び負荷軽減の取組

1.1：原材料購入量

- 取組：原材料使用効率の向上
- ・製品、材料の歩留向上
- 原材料購入量の把握
- ・購入実績の記録

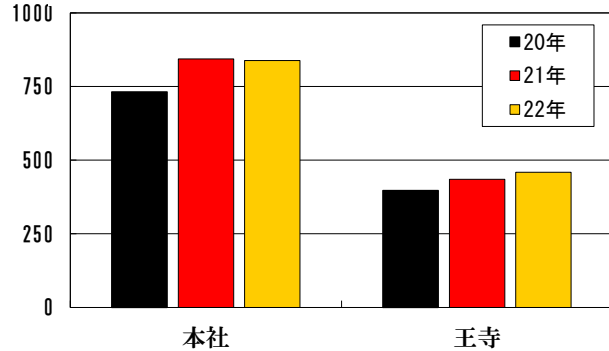
20～22年 鋼種別購入量推移 (Ton)



1.2：電力使用量

- 取組：消灯、節電の励行
- ・昼休み時消灯
 - ・冷暖房温度の調整
 - ・休憩時設備運転の停止
- 最大電力の抑制
- ・デマンド監視制御の運用及び実績の記録
- 電力使用量の把握
- ・実績の記録

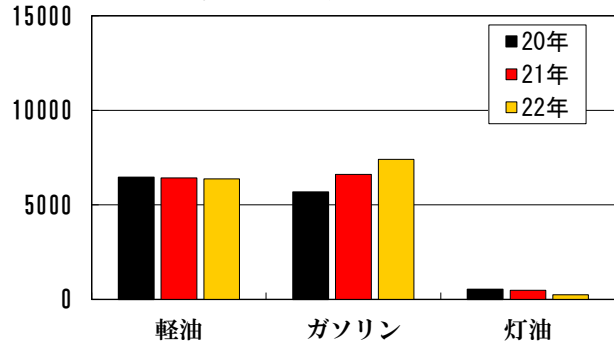
20～22年 工場別電気使用量推移 (MWh)



1.3：燃料使用量

- 取組：車両別燃費の改善
- ・エコドライブの推進
 - ・車両別目標燃費の設定
 - ・走行距離の報告
 - ・積載の集約化
- 灯油使用量の削減
- ・防寒の対応
 - ・使用期間の設定
- 購入量の把握
- ・実績の記録

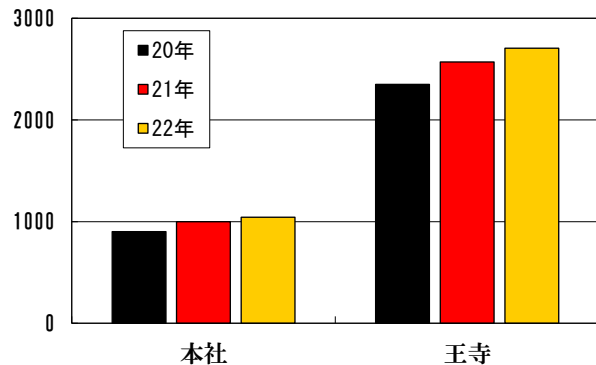
20～22年 燃料別使用量推移 (ℓ)



1.4：上水使用量

- 取組：上水使用量の削減
- ・節水、漏水のチェック
- 使用量の把握
- ・実績の記録

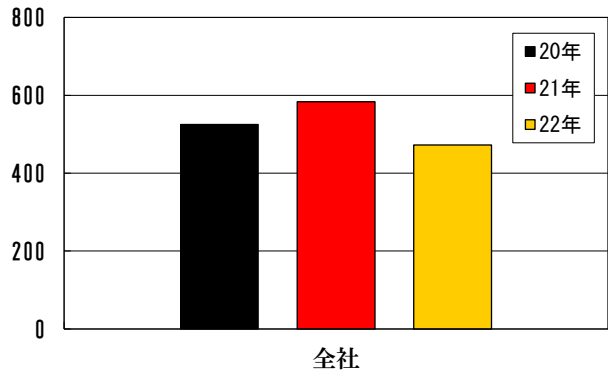
20～22年 工場別水使用量推移 (m³)



1.5: コピー用紙使用量(A4用紙換算)

- 取組 : コピー用紙使用量の削減
- ・両面コピーの活用
 - ・片面コピー紙の再利用
 - ・ミスプリントの防止
- 社内LANの活用による
文書の電子媒体化の推進
- 購入量の把握
- ・実績の記録

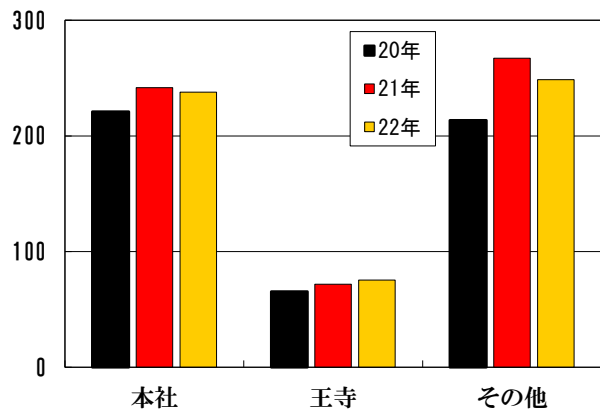
20~22年 紙使用量推移 (千枚)



1.6: スクラップ排出量の削減

- 取組 : 原材料使用効率の向上
- ・加工不良の削減
 - ・クレーム、不具合の撲滅
- スクラップ排出量の削減
- ・端材の有効活用
 - ・鋼種の分別収集
- スクラップ排出量の把握
- ・計量証明による実績の記録

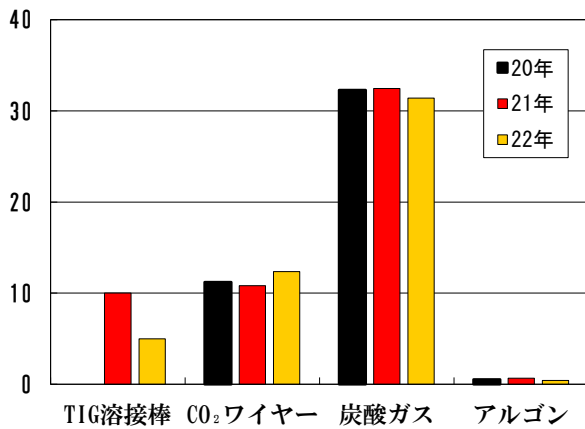
20~22年部署別スクラップ排出量推移 (Ton)



1.7: 副資材使用量の把握

- 取組 : 業務工程の最適化
- ・塗装ロボットの有効活用
 - ・過剰使用の抑制
- 各副資材使用量の把握
- ・実績の記録

20~22年 溶接棒、ガス使用量推移
(TIG溶接棒は kg 他は Ton)



20~22年 塗料、溶剤使用量推移
(防錆塗料については kg 他は l)

